

目 录

昭和九年民團事務報告書·····	1
昭和十年民團事務報告書·····	67
昭和十一年民團事務報告書·····	134
昭和十二年民團事務報告書·····	206
昭和十三年民團事務報告書·····	311

昭和九年民團事務報告書

附 民團財產明細書

天津居留民團

天津居留民團事務報告書目次

第一編 概論



第一章 總論
一、本團之成立
二、本團之目的
三、本團之組織
四、本團之業務
五、本團之經費
六、本團之地位
七、本團之關係
八、本團之沿革
九、本團之現狀
十、本團之展望

一〇〇

第二章 組織
一、本團之組織
二、本團之職員
三、本團之職員之職務
四、本團之職員之任期
五、本團之職員之選舉
六、本團之職員之罷免
七、本團之職員之報酬
八、本團之職員之福利
九、本團之職員之訓練
十、本團之職員之考核
十一、本團之職員之懲戒
十二、本團之職員之退休
十三、本團之職員之遺屬
十四、本團之職員之其他事項

一〇〇

第三章 業務
一、本團之業務
二、本團之業務之範圍
三、本團之業務之執行
四、本團之業務之監督
五、本團之業務之考核
六、本團之業務之改進
七、本團之業務之其他事項

一〇〇

一〇〇

昭和九年天津居留民團事務報告目次

第一、庶務部

一、行政委員會	一
(一)行政委員	一
(二)行政委員會決議事項	三
(三)臨時小委員會	五
(四)事務代行	五
二、會計檢查委員	一五
三、諸規則ノ制定及改正	一六
(一)水道使用條例改正	一六
(二)水道使用條例施行細則制定	二二
(三)巡捕給與規則中改正	二三
(四)工事請負規則改正	二七
(五)居留民團法施行規則改正ノ件ニ現行諸法規中改正ノ件	二七
四、特別委員囑託	三〇

(2)

(一)課金調査委員	三〇
(二)法規調査特別委員	三二
五、豫備費支出ノ件	三三
六、民會及民會議員協議會	三四
(一)第二十七次通常民會	三四
(二)第三十三次臨時民會	三五
(三)第三十四次臨時民會	三五
(四)民會議員協議會	三六
(五)民會議員協議會	三六
七、民會議長及副議長	三六
八、民會議員異動ノ件	三六
九、第六回居留民會議員選舉ノ件	三七
十、民會議員選舉異議申立ノ件	三八
十一、居留民團法施行規則改正ノ件	三九
十二、居留民團法施行細則改正ノ件	四二
十三、領事裁判上訴地移管ニ關スル請願ノ件	四四
十四、第七團債償還延滞事情具陳ノ件	四六
十五、民團事業獎勵金御下賜ノ件	六〇

(3)

第二、財務部

十六、巡捕長日本視察派遣ノ件	六〇
十七、密附金及義捐金	六〇
十八、招魂祭舉行日變更ノ件	六一
十九、入營者ニ對シ餽別呈品ノ件	六一
二十、庶務雜件	六二
(一)民團主催舉行諸會ノ件	六二
(二)帝國陸海軍慰問並ニ記念品贈呈ノ件	六三
二十一、義勇隊ニ關スル件	六四
二十二、吏員及雇員ノ異動並ニ現在員	七一
一、出納檢查	七七
二、民團課金及其他公課金ノ徵收狀況	七七
(一)昭和九年度民團歲入出現況表	七七
(二)過年度民團課金滯納現況表	八二
(三)過年度工巡費衛生費水道料滯納現況表	八三
三、電車會社及水道會社並ニ製氷會社ノ特殊ニ對スル利益配當ノ件	八四

(4)

四、主要民團公課金負擔人員並ニ負擔額調	八四
(一)民團公課金金額別負擔人員調	八四
イ、土地課金	八四
ロ、家屋課金	八六
ハ、取得課金	八七
ニ、營業課金	八八
ホ、工巡費	九一
ヘ、衛生費	九二
(二)主要民團公課金内外人別負擔額調	九五
(三)雜種課金等級別負擔人員調	九六
イ、ダンス	九六
ロ、常設興行	九七
ハ、日本人藝妓	九七
ニ、酌婦	九八
ホ、中國人藝妓	九八
ヘ、遊戯場	九九
(四)昭和九年中月額鑑札發行表	九九
(五)昭和九年中月額鑑札發行表	一〇〇

(5)

五、各種寄附金	一〇三
(一)消防被服寄附金	一〇三
(二)警備費寄附金	一〇四
(三)埠頭築造費寄附金	一〇四
(四)在留邦人救済同情寄附金	一〇四
(五)義勇隊寄附金	一〇四
六、課金調査委員會	一〇五
七、土地家屋台帳地籍圖ニ關スル事項	一〇九
八、調査雜件	一一〇
九、諸統計表	一一〇
(一)戶口統計一覽表	一一一
(二)租界內内地人戶口表	一一二
(三)租界外内地人戶口表	一一五
(四)朝鮮人戶口表	一一五
(五)台灣人戶口表	一二六
(六)西洋人戶口表	一二六
(七)在留邦人營業別	一二七
(八)租界內中國人戶口別	一二八

(6)

第三、土木部

一六四

一、土木	一六四
(一)處理事項	一六四
(二)工事施行	一六四
イ、松島街車道築造工事	一六四
ロ、蓬萊街車道築造工事	一六五
ハ、福島街車道築造工事	一六六
ニ、住吉街道路築造工事	一六七
(九)租界內中國人職業別	一二二
(一〇)租界內空家數	一二三
(一一)租界內道路敷地明細表	一二三
(一二)昭和七年度居留民歲入出決算	一二四
(一三)昭和七年度特別會計天津共立學校増築費積立金歲入出決算	一二四
(一四)昭和八年度特別會計天津共立學校増築費積立金歲入出決算	一二四
(一五)昭和九年度居留民歲入出予算	一二三
(一六)昭和九年度特別會計減債基金歲入出予算	一二二

(7)

本、淡路街歩道舗装工事	一六八
ハ、須磨街歩道舗装工事	一六八
ト、福島街歩道舗装工事	一六九
チ、明石街歩道舗装工事	一七〇
リ、宮島街歩道舗装工事	一七〇
(三)一般修道	一七一
イ、ソリデヂット道路補修	一七一
ロ、コールドター道路補修	一七二
ハ、アスファルト補修道	一七二
ニ、碎石道路補修	一七三
ホ、未完成道路補修	一七三
ヘ、セメントタイル舗装歩道補修	一七四
ト、駐屯軍正門前舗装工事	一七四
(四)下水道工事	一七五
イ、松島街下水道渠改造工事	一七五
ロ、住吉街汚水處分場築造其他工事	一七五
(五)街樹	一七七
ニ、上水道	一七九

(8)

第四、衛生部

一八八

一、傳染病	一八八
(一)給水工事	一七九
イ、新設工事	一七九
ロ、敷設替工事	一八〇
(二)雜工事	一八〇
(三)上水使用量及使用戸數	一八一
(四)漏水調査區劃整理	一八二
(五)漏水調査狀況	一八二
(六)配水管敷設替工事	一八五
(七)配水管撤去工事	一八六
三、建築	一八六
(一)處理事項	一八六
(二)工事施行	一八六
イ、療病院棟一部修繕工事	一八六
ロ、雜修繕工事	一八七

(9)

一、昭和九年法定傳染病患者發生月別	一八八
二、昭和九年法定傳染病患者轉歸及治療日數	一八九
三、昭和九年法定傳染病患者發生街別	一九〇
四、既往拾個年法定傳染病患者及死亡數	一九二
五、既往拾個年間法定傳染病々名別、患者及死亡率	一九五
二、保健及防疫	一九八
一、種痘	一九八
(一)コレラ	一九八
(二)チブス及赤痢	二〇二
(三)猩紅熱	二〇二
(四)霍亂、健康診斷	二〇五
(五)接客營業者ノ健康診斷	二〇七
(六)學童ノ寄生蟲檢査	二〇七
三、出生	二一〇
四、死亡	二一一
(一)昭和九年死亡者月別及男女別	二一一
(二)昭和九年死亡者病名年齡別	二一一
(三)既往十個年死亡者累年比較	二一六

(10)

五、犬二關スル事項	二二六
六、療病院ニ關スル事項	二二七
(一)昭和九年療病院收容傳染病患者數及治療日數	二二七
(二)昭和九年療病院收容傳染病患者治病成績	二二八
(三)既往拾個年療病院收容傳染病患者死亡比較	二二九
七、實費診療所	二三〇
八、結核預防施設	二三一
(一)結核兒童ノ調査	二三一
(二)健康相談	二三三
(三)患者ノ隔離	二三三
九、清潔法施行	二三四
第五、保 淨 部	二三四
一、作業編成	二三四
二、道路掃除	二三五
三、道路撒水	二三六
四、除雪作業	二三八

(11)

五、公私設下水道掃除	二二九
六、塵芥收去	二三〇
七、屎尿收去	二三一
第六、埠 頭 部	二三二
一、白河狀態	二三二
二、天津港入港船舶統計	二三三
三、日界埠頭通航汽船及駁艇數統計	二三四
四、民船繫船隻統計	二三四
五、雜件	二三五
「附」	
民團財產明細書	二三六
資產の部	
土地	二三六
建物及附屬物	二三七
上水道	二三九

(12)

下水 道	二四〇
備 品	二四三
有價證券、銀行預金及現金	二四四
負債の部	
國 債	二四五
天津日本租界道路築造一覽圖	
天津日本租界水道一覽圖	

(5)

[illegible]

(7)

三月二十一日

- 一、工巡費徵收條例中改正ノ件
- 一、民會議案工巡費徵收條例中改正ノ件

三月二十九日

- 一、汚水處分場唧筒類購入ノ件
- 一、義勇隊々服購入ノ件
- 一、巡捕被服購入ノ件
- 一、昭和九年度取得課金決定ノ件
- 一、昭和九年度工巡費決定ノ件
- 一、巡捕給典規則改正ノ件

四月五日

- 一、昭和九年度家屋課金決定ノ件
- 一、昭和九年度工巡費追加一決定ノ件
- 一、人事ノ件
- 一、義勇隊々員入隊承認ノ件

四月十二日

- 一、昭和九年度工巡費追加一決定ノ件
- 一、道路用碎石購入ノ件

(13)

十月十九日(回覽決議)	可決
一、昭和九年度選舉人名簿修正ノ件	
十月二十二日	
一、人事ノ件	
十月三十一日	
一、兵營前道路鋪裝追加工事ノ件	可決
一、昭和九年度選舉人名簿修正ノ件	可決
十一月十三日(回覽決議)	可決
一、昭和九年度選舉人名簿確定ノ件	可決
十一月二十一日	
一、葬列廻街通過料決定ノ件	可決
十一月二十九日(回覽決議)	可決
一、臨時民會開會ノ件	可決
十一月三十日(回覽決議)	可決
一、昭和九年度新築家屋課金追加ニ決定ノ件	可決
一、昭和九年度取得課金追加六決定ノ件	可決
一、昭和九年度營業課金追加七決定ノ件	可決
一、昭和九年度工巡費追加六決定ノ件	可決

(14)

十一月七日	可決
一、昭和九年度營業課金決定ニ對シ異議申立方再決定ノ件	可決
一、昭和九年度工巡費決定ニ對シ異議申立ニ付再決定ノ件	可決
十二月十二日	
一、行政委員會會長選舉	森川委員當選
一、行政委員會副會長選舉	樋谷委員當選
一、會計主任選舉	岡本委員當選
十二月十九日	
一、民團法規調查特別委員囑託ノ件	會長一任
一、課金調査委員囑託ノ件	會長一任
一、人事ノ件	會長一任
一、人力車鹽札料増額ノ件	可決
十二月十九日	
一、昭和八年度居留民團歳入出決算案	承認
一、人事ノ件	可決
一、汚水處分場工事一部設計變更ノ件	可決
十二月二十六日	
一、昭和九年度家屋課金異議申立分再決定ノ件	可決
一、義勇隊員入隊ノ件	可決

(15)

十二月二十九日	可決
一、民國諸規定改正ノ件	
一、人事ノ件	
一、選舉異議審査無効決定ニ對シ不服申立ノ件	
一、理事代行者決定ノ件	
(三)臨時小委員會	
一、國際汽船埠頭利用小委員會	
一、國際汽船會社取扱汽船日界上航に關する諸問題研究のため上野會長、岡本、山田、樋谷、大内、各委員を委員とする小委員會を組織し當件につき研究ありたり	
一、橋立街御所改造案研究のため上野會長、牧、志村、植前、樋谷、龜澤、各委員を委員とする小委員會を組織し種々研究する所ありたり	
(四)事務代行	
昭和九年十二月三十日より小栗理事旅行に付行政委員會副會長樋谷信治全事務代行	
一、會計検査委員	
昭和八年末より昭和九年中に於ける會計検査委員の異動左の如し。	
最上 龜治 (昭和八年十二月二日改選)	
原田 萬造 (全)	

(16)

八本 忠良 (昭和九年十二月四日改選)	
大内 專 (全)	
橋本 磯太 (全)	
三、諸規則ノ制定及改正	
昭和九年度居留民會及行政委員會ニ於テ議決シ總領事ノ認可ヲ得タル諸規則ノ制定、改正及廢止左ノ如シ	
(一)水道使用條例改正 (昭和九年三月民會決議 全年三月二十七日發布)	
水道使用條例ヲ左ノ通り改ム	
第一章 總 則	
第一條 上水ハ左ノ區別ニヨリ天津日本專管居留地内ニ供給ス	
一、專用 栓	
一、共用 栓	
一、消防 栓	
第二條 上水ヲ使用セントスル者ハ本條例ニ據リ民團ニ請求スヘシ使用ヲ中止又ハ廢止セン	

(18)

(17)

第九條 第六條第一項但書規定ノ工事竣成後三ヶ月以内ニ生シタル故障ハ民團ノ費用ヲ以テ修繕ス但シ使用者ノ故意過失ニヨル故障ハ此ノ限りニアラス

第三章 給 水

第十條 共用栓ハ時間ヲ定メテ給水ス
工事又ハ止ムヲ得サル事由ニヨリ給水ノ停止又ハ制限ヲナス場合ハ民團之ヲ公告ス但シ緊急ノ場合ハ公告セサルコトアルヘシ給水ノ停止又ハ制限ニ依ル損害ニ對シ民團ハ其ノ責ニ任セス

第十二條 上水使用者ハ量水器ノ作用ニ關シ民團ニ試験ヲ請求スルコトヲ得
試験ノ結果百分ノ五以内ノ指差ナルトキハ手数料トシテ銀五十仙ヲ徵收ス
民團ハ必要ニ應ジ量水器ノ試験ヲナスコトアルヘシ

第十三條 前條試験ノ結果指差百分ノ五以上ナルトキハ當月ノ給水量ヲ訂正ス但シ修繕料ハ實費ヲ徵收ス

第十四條 民團ニ於テ公益上必要ト認メタルトキハ私設水栓ヲ他人ニ使用セシムルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テ所有者ハ之ヲ拒ムコトヲ得但シ給水料ハ使用者ノ負擔トス

第四章 消 火 装 置

第十五條 消火栓ハ公設トス
私設消火栓トハ設置シタル場所ノ如何ヲ問ハス「ホース」ヲ以テ連結シ得ヘキ水栓

トストキ亦同シ

第三條 本條例ニ於テ配水管ト稱スルハ道路ノ方向ニ敷設シタル本管ヲ謂ヒ給水裝置トハ配水管ヨリ分岐シタル給水線及之ニ附屬スル給水用具ヲ總稱ス

第四條 專用栓ニヨル使用者ハ民團ニテ定メタル標識ヲ門戸ニ掲クルモノトス

第五條 本條例ニ規定スル使用料又ハ其他ノ料金ハ其請求者ヨリ之ヲ徵收ス

第二章 給 水 裝 置

第六條 專用栓ニヨリ給水ヲ受クルカタメ給水裝置ヲ新設セムトスル者ハ豫メ民團ニ圖面ヲ提出シ自費ヲ以テ施工スヘシ但シ配水管ヨリ量水器迄ハ民團ニ於テ設計施工ス其ノ工事費ハ前納トス給水裝置ノ變更修繕及撤去ノ場合亦同シ
前二項民團施工部分ニツキ若手後之ヲ取消シタルトキト雖モ既ニ要シタル工事費ハ之ヲ返還セス

第七條 給水裝置ノ位置ハ民團ニ於テ不當ト認ムルトキハ之ヲ變更セシムルコトヲ得
給水裝置ノ位置又ハ工事ニ關シ第三者ヨリ異議アルモ民團ハ其ノ責ニ任セス

第八條 他人ノ給水管ヨリ支管ヲ分岐セントスル者ハ原管所有者ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス
原管所有者給水管ノ位置ヲ變更シ又ハ撤去セントスルトキハ五日以前ニ支管所有者ニ通知スヘシ此場合ニ於テ支管所有者ハ民團ニ對シ支管ノ撤去若クハ敷設料ヲ請求ヲ爲スヘシ

(20)

(19)

第三種 民團及共益會關係ノ給水

第四種 船舶給水

第二十二條 專用栓ノ使用水量ハ民團係員毎月一回量水器ヲ點檢シテ使用料ヲ徵收ス
專用栓ニ於テ量水器ノ破損又ハ故障ニヨリ量水器ノ指示量ト實際ト差異アリト認メタルトキハ前三ヶ月分ノ平均ニヨリ使用料ヲ徵收ス若シ之ニ依リ難キトキハ營業其他ヲ參酌民團ニ於テ使用水量ヲ認定ス

第二十四條 共用栓ノ使用料ハ民團若クハ民團ノ指定シタル賣捌所ニ於テ給水票ヲ求メ置キ一荷毎ニ一枚ヲ看守人ニ渡スヘシ看守人ニハ現金ノ授受ヲ許サス

第二十五條 共用栓ノ使用料ハ一百二十荷(一荷十ガロン)ニ付銀一弗トス但シ賣捌所ニ對シテハ一百二十荷ノ外ニ手数料トシテ五荷ヲ給ス

第二十六條 使用料ハ給水ノ停止又ハ制限ヲナシタルトキ若クハ水道工事其他避クヘカラサル事故ノ爲給水栓ヨリ漏水ヲ放出シタル場合及給水裝置破損ノ爲漏水セル場合ト雖モ減免セサルモノトス

第二十七條 公益事業又ハ特別ノ理由アルモノニ對シテハ民團ノ認定ニヨリ使用料ヲ減免スルコトアルヘシ但シ民團ハ何時ニテモ其認定ヲ取消スコトヲ得

第六章 違 背 處 分

第二十八條 左ノ各號ニ該當スル所爲アリタルトキハ給水ヲ停止スルコトアルヘシ

ニシテ消水ノ用ニ供スルモノヲ謂フ

第十六條 私設消火栓ハ請求ニヨリ之ヲ設置ス其工事並ニ費用ニ付テハ第六條ヲ準用ス
私設消火栓ハ平常民團之ヲ封鎖シ火災又ハ消火演習ノ外使用スルコトヲ許サス

第十七條 私設消火栓ハ火災ノ場合ニ於テハ公設消火栓ト同様ノ取扱ヒヲ爲シ水栓其他屬具ハ平常ニ於テモ消防係員之ヲ檢査スルコトアルヘシ

第十八條 公設消火栓ハ出水及演習ノ際ニ於テ消防關係官吏又ハ消防係員ニ限リ之ヲ開閉ス
演習ノタメ消火栓ヲ使用セムトスルトキハ前日迄ニ民團ニ申出ツヘシ

第十九條 消火栓ノ放水演習ハ一回十分間以内トス

第二十條 私設消火栓ノ放水演習ハ年二回ハ無料トシ其餘ハ一回毎ニ一弗ヲ徵收ス
私設消火栓ヲ消水ノ爲メ使用シタルトキハ使用料ヲ徵收セス但シ三日以内ニ使用シタル旨届出ツヘシ

第五章 徵 收

第二十一條 專用栓ノ使用料ハ左ノ區別ニ依リ徵收ス

第一種 一般專用栓 千ガロンニ付 銀八十五仙
但シ一ヶ月使用量最低限度五百ガロン迄銀四十五仙トス
使用期間一ヶ月ニ滿タサルモノモ一ヶ月トシテ計算ス

第二種 軍隊總領事館及特ニ民團ニ於テ公認シタル工場 千ガロンニ付 銀七十五仙

(21)

- 一、量水器ノ作用ヲ妨害シ其他使用料ノ漏脱ヲ圖リタルトキ
二、消火ノ爲ニ非ス又演習通知ヲサスシテ私設消火栓ノ封緘ヲ破棄シタルモノ
三、係員ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ妨害シタルトキ
量水器又ハ給水裝置破損ノ場合民團ニ於テ取替又ハ敷設替ヲ要求スルモノニ應セサルトキハ施工完了迄給水ヲ停止ス
第三十條 無届ニテ上水ヲ使用シタルモノハ事由ノ如何ヲ問ハス前同點檢以後ノ水量ニ對シ全料ヲ徴收ス給水ノ中止又ハ廢止ニ付請求ナキトキハ引續キ水道ヲ使用シタルモノトシテ第二十一條ニ定ムル使用料ヲ徴收ス
第三十一條 不正ノ手段ニヨリ使用料ヲ逃脱シタルトキハ民團ノ認定ニヨリ使用料ヲ徴收ス
第三十二條 本條例ニヨリ料金其他ノ費用ヲ指定ノ期限ニ納付セサルトキハ其完納ニ至ル迄給水ヲ停止スルコトアルヘシ
第三十三條 給水裝置所有者又ハ使用者ハ自己ノ所爲又ハ指揮ニ出テサル故ヲ以テ本條例ノ適用ニ付其責任ヲ免カルコトヲ得ス

附 則

本條例ノ施行ニ關スル細則ハ行政委員會之ヲ定ム
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(22)

(一) 水道使用條例施行細則制定 (昭和九年三月)
行政委員會決議

水道使用條例施行細則ヲ左ノ通り定ム
水道使用條例施行細則

- 第一條 本細則ニ於テ條例ト稱スルハ民團水道使用條例ヲ謂フ
第二條 本條例ニヨリ給水ヲ受クル者ニ對シ連帶保證人ノ連署ヲ要求スルコトアルヘシ保證人ハ本條例ニ遵ヒ負擔義務一切ノ責任ヲ負フヘシ保證人ハ日本租界ニ居住シ年額課金銀拾圓以上納付スルモノタルヘシ保證人其資格ヲ失ヒタルトキハ更ニ保證人ヲ定メテ届出ツヘシ保證人ヲ不適當ト認メタルトキハ之ヲ變更セシムルコトアルヘシ
第三條 他人ノ土地建物ヲ通過シテ給水管ヲ敷設セントスルトキハ其土地又ハ建物所有者ノ承諾アルコトヲ要ス
第四條 量水器ヲ設置シタル場所ニハ點檢ニ支障ヲ生スヘキ物件ヲ堆積シ又ハ工事物件ヲ設クルコトヲ得ス
第五條 量水器ノ口徑ハ民團之ヲ定ム
第六條 亞鉛引鐵管ヲ以テ敷設シタル給水裝置ニシテ漏水又ハ其他ノ故障アリタルトキハ鉛管ヲ以テ敷設替ヲナスヘシ此場合民團施工ノ部分ニ限リ亞鉛引鐵管ト鉛管ノ差額代金ハ民團之ヲ負擔ス

(23)

- 第七條 量水器ノ點檢ハ已ムテ得サル事故アリタルトキ條例第二十二條ノ規定ニヨラサルコトアルヘシ此場合ニ於テ使用水量ハ毎月均等ニ使用シタルモノト見做ス
第八條 條例第十二條ノ量水器試驗ニハ其請求者之ニ立會スヘシ但シ立會セサルトキハ民團之ヲ行フ
第九條 本條例ニ於テ料金ニ關シ一ヶ月ト稱スルハ量水器點檢ノ時ヨリ翌月點檢ノ時ニ至ル期間ヲ謂フ
第十條 船舶給水ハ時宜ニヨリ取扱人ヲ指定スルコトアルヘシ
第十一條 給水ニ關スル諸水害及漏害等ハ民團ニ於テ其用紙ヲ交付ス但シ急ヲ要スルトキハ電話又ハ電話ヲ以テ申告スルコトヲ得
(三) 巡捕給與規則中改正 (昭和九年三月二十九日改正)

- 巡捕給與規則中左ノ通り改ム
第十二條 滿三ヶ年以上職實ニ勤績シ退職又ハ死亡シタルトキハ其當時ノ月俸額ニ對スル左記額ヲ勤績慰勞金トシテ支給ス但シ三ヶ年未満ノ勤績者ト雖モ職務ノ爲メ死亡シタル場合ハ之ヲ滿三ヶ年勤績ト見做ス
勤績年數九ヶ年迄 一ヶ年毎ニ 一ヶ月分
十ヶ年以上十四ヶ年迄 九ヶ年ヲ超過スル年數ニ對シ 一ヶ月半分
十五ヶ年以上十九ヶ年迄 十四ヶ年ヲ超過スル年數ニ對シ 二ヶ月分
全 三ヶ月分

(24)

- 二十ヶ年 以上 十九ヶ年ヲ超過スル年數ニ對シ 全 三ヶ月分
六ヶ月ヲ超ヘタル場合ハ一年ニ計算ス
第十五條 職務ノ爲メ傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ治療費ヲ給スル外銀貳拾圓乃至銀壹百圓ノ慰勞料ヲ支給ス
第十六條 前條ノ傷病又ハ疾病ニ因リ不具廢疾トナリ其ノ職ニ堪ヘス退職シタルトキハ其ノ程度ニヨリ銀貳百圓乃至銀壹千圓ノ慰勞料ヲ支給ス
不具廢疾ノ程度並ニ支給額ハ別表標準ニ據ル
第十七條 職務ノ爲メ傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ在職中死亡シタルトキハ祭祀料トシテ銀壹千圓ヲ支給ス但シ此場合第十三條規定ノ祭祀料ハ之ヲ支給セス
第十八條 中『第十二條第二項』ノ字句刪除
巡捕給與規則第十六條中規定ノ不具廢疾程度並ニ支給標準表

(一) 特別項症

- 一、常ニ就床ヲ要シ且復雜ナル介護ヲ要スルモノ
二、重大ナル精神障礙ノ爲常ニ監視又ハ復雜ナル介護ヲ要スルモノ
三、身體諸部ノ障礙ヲ綜合シテ其ノ程度第一項症第二項症乃至第六項症ヲ加ヘタルモノ
第一項症

(26)

(25)

第二項

- 一、複雜ナル介護ヲ要セサルモ常ニ就床ヲ要スルモノ
- 二、精神の又ハ身體的作業能力ヲ失ヒ僅カニ自用ヲ辦シ得ルニ過キサルモノ
- 三、咀嚼及言語ノ機能ヲ併セ廢シタルモノ
- 四、兩眼ノ視力カ視標〇、一ヲ〇、五メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ
- 五、肘關節以上ニテ兩上肢ヲ失ヒタルモノ
- 六、膝關節以上ニテ兩下肢ヲ失ヒタルモノ

第三項

- 一、精神の又ハ身體的作業能力ノ大部ヲ失ヒタルモノ
- 二、咀嚼及ハ言語ノ機能ヲ廢シタルモノ
- 三、兩眼ノ視力カ視標〇、一ヲ一メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ
- 四、兩耳全ク聾シタルモノ
- 五、腕關節以上ニテ兩上肢ヲ失ヒタルモノ
- 六、足關節以上ニテ兩下肢ヲ失ヒタルモノ

第四項

- 一、咀嚼又ハ言語ノ機能ニ大ニ妨アルモノ
- 二、兩耳全ク失ヒタルモノ
- 三、肘關節以上ニテ一上肢ヲ失ヒタルモノ
- 四、膝關節以上ニテ一下肢ヲ失ヒタルモノ

第五項

- 五、兩耳ノ聽力カ耳鼓ニ接セサレハ大聲ヲ解シ得サルモノ

第六項

- 一、泌尿器ノ機能ニ大ニ妨アルモノ
- 二、兩眼ノ視力カ視標〇、一ヲ二メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ
- 三、腕關節以上ニテ一上肢ヲ失ヒタルモノ
- 四、足關節以上ニテ一下肢ヲ失ヒタルモノ

第七項

- 一、鼻ヲ失ヒ其ノ機能ニ大ニ妨アルモノ
- 二、頭部顔面等ニ大ナル醜形ヲ殘シタルモノ
- 三、一眼ノ視力カ視標〇、一ヲ五メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ
- 四、一側總指ヲ全ク失ヒタルモノ

第八項

- 一、頭部又ハ軀幹ノ運動ニ大ニ妨アルモノ
- 二、一眼ノ視力カ視標〇、一ヲ一メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ
- 三、一側總指及示指ヲ全ク失ヒタルモノ
- 四、一側總趾ヲ全ク失ヒタルモノ

前項ノ各症ニ該當セサル傷痍疾病ノ症項ハ前項ノ規定ニ準シ之ヲ査定ス
視力ヲ測定スル場合ニ於テハ屈折異狀ノモノニ付テハ矯正視力ニ依リ視標ハ萬國共通視力標ニ依ル

(28)

(27)

(一)支給額表

特別項症	壹千弗
第一項症	七百弗
第二項症	六百弗
第三項症	五百弗
第四項症	四百弗
第五項症	三百弗
第六項症	二百弗

(四)工事請負規則改正 (昭和九年七月六日行政委員會決議改正)

工事請負規則中左ノ通り改正ス

第十一條 契約保証金ハ竣工後直ニ之ヲ還付ス但シ工事ノ性質ニヨリ契約書所定ノ工事責任期間満了シ契約義務履行ニ至ル迄其一半ヲ保留スルコトアルヘシ

(五)居留民團法施行規則改正ニ伴ヒ現行諸法規

中改正ノ件(昭和九年十二月二十八日公告)

昭和九年十二月十一日公布外務省令第十號に依る居留民團法施行規則改正に伴ひ、居留民會及び行政委員會に於て定めたる諸條例並に規程其他中「行政委員會」とあるを「參事會」に、「行政委員會會長」とあるを「參事會長」に、「行政委員會」とあるを「參事會員」に改め昭和十年一月一日より施行する旨居留民團法施行規則第五十一條、第五十二條、第五十五條、第五十六條及第五十八條に據據し手續を了し昭和九年十二月廿八日之を公告す

(改正した諸法規)

- 一、民團公告式
- 一、民會々議規則
- 一、居留民團法施行規則第三十二條ニ依ル行政委員會委任事項
- 一、胡同ノ廢止變更及處分ニ關シ行政委員會ニ一任ノ件
- 一、課金調査會條例
- 一、民團理事規程
- 一、土地課金條例
- 一、家屋課金條例
- 一、取得課金條例
- 一、營業課金條例
- 一、雜稅課金條例
- 一、諸車體札料條例
- 一、衛生費徵收條例
- 一、工巡費徵收條例
- 一、不動産取得稅條例

(29)

- 一、道路開修費徵收條例
 - 一、行人入鑿札料條例
 - 一、埠頭規則
 - 一、冠婚葬祭行列旭街通過料條例
 - 一、天津公立學校增築費積立金特別會計條例
 - 一、不動產買收條例
 - 一、道路敷地買收條例
 - 一、天津療病院諸料金條例
 - 一、天津日本義勇隊規程
 - 一、水道使用條例
- (以上民會決議ニ據ルモノ)
- 一、行政委員會執務章程
- 一、民團法規調查特別委員會規則
- 一、民團理事給與規程
- 一、民團吏員規程
- 一、民團旅費規程
- 一、傳染病豫防救治ニ從事スル者ノ給與規程
- 一、百斯黨豫防救治ニ從事スル吏員臨時手當給與ノ件
- (以上行政委員會決議ニ據ルモノ)

(30)

四、特別委員囑託

昭和九年中行政委員會ニ於テ囑託セル委員左ノ如シ

(一)課金調査委員

昭和八年十二月二十一日依囑(昭和九年十二月迄)

委員長 赤山今朝治
副委員長 井高岩一郎

橋本磯太
長谷川義三郎
張世萬
渡邊德太
鍛冶部一郎
上田茂
山尾市二郎
松本京作
松田昌壽
郡茂行
佐々木敏丸

(31)

昭和九年十二月十九日依囑

委員長 赤山今朝治
副委員長 長谷川義三郎

清水一太郎
平井久一
原田萬造
張世萬
吉田芳太郎
副田重次郎
桑原興惣八
山田榮治
松本京作
郡茂行
佐藤玖作
佐々木長次郎
清水一太郎

(32)

(二)法規調査特別委員

昭和八年十二月二十一日依囑(昭和九年十二月迄)

石川久雄
岡本久雄
植前香
植松眞經
山田榮治
山田九藏
牧尙一
松尾豐實
小泉敏次
小林陽之助
小谷信治
石川通
植前香
山田九藏

(84)

(33)

五、豫備費支出ノ件		昭八年及九年中ニ於ケル豫備費支出ノ件總領事ノ認可ヲ得テ左ノ通り各款ニ補充シタリ	
申請月日	認可月日	豫算別	補充金額
八年四月十三日	四月十四日	昭七年 居留民團歳入出予算	第六款 水道費 九、五〇〇、〇〇
全日	全日	第十三款 雜支出	二、五〇〇、〇〇
六、民會及民會議員協議會			
(一)第二十七次通常民會			
昭和九年三月二十二日ヨリ二十四日迄三日間ニ亘リ(一日流會)於公會堂第二十七次居留民會通常會開會議案左ノ如シ			
一、民會議長選舉			
一、報告			
一、民團會計檢査委員報告			
二、昭和八年度居留民團事務報告			
議事日程			
第一、昭和七年度居留民團歳入出決算承認ノ件			
第二、昭和七年度特別會計天津共立學校増築費積立金歳入出決算承認ノ件			
第三、水道使用條例案			
修正可決			

(36)

(35)

第四、工巡警費條例中改正ノ件		可決
第五、住吉街廁所及伏見街汚物集捨所建物取毀ノ件		可決
第六、天津共立學校増築費積立金特別會計條例廢止ノ件		可決
第七、天津共立學校増築費積立金ヲ一般會計ニ繰入ノ件		可決
第八、昭和八年度特別會計天津共立學校増築費積立金歳入出決算承認ノ件		承認
第九、昭和九年度居留民團歳入出總決算案		可決
第十、昭和九年度特別會計減債基金歳入出豫算案		可決
(二)第三十三次臨時民會		
昭和九年十月六日於公會堂第三十三次居留民會臨時會開會議案左ノ如シ		
第一、橋立街廁所移轉並ニ下水暗渠改築ノ件		可決
第二、昭和九年度居留民團歳入出追加豫算案		可決
(三)第三十四次臨時民會		
昭和九年十二月四日於公會堂第三十四次居留民會臨時會開會議案左ノ如シ		
第一、居留民會議長選舉		
第二、居留民會副議長選舉		
第三、行政委員選舉		
第四、豫備行政委員選舉		
第五、民團會計檢査委員選舉		
(四)民會議員協議會		
昭和九年八月十一日於公會堂民會議員協議會開會左記問題に付協議す		
一、居留民團法施行規則改正ニ關スル件		
(五)民會議員協議會		
昭和九年八月廿三日於公會堂民會議員協議會開會左記ノ件ニ付報告す		
一、居留民團法施行改正ニ關スル件		
七、民會議長及副議長		
一、議長		
上野 壽	昭和七年十二月二日就任	昭和九年三月廿三日辭任
遠山 猛雄	昭和九年三月廿三日就任	昭和九年十二月任期満了
山内 令三郎	昭和七年十二月二日就任	昭和九年十二月任期満了
龜澤 省朗	昭和九年十二月四日就任	
八、民會議員異動ノ件		
本年民會議員中左の通り辭任ありたり		

(37)

(氏名)	(月日)	(事由)
岸田 菊郎	昭和八年十一月	轉任離津ノタメ
稻田 龜治	昭和九年四月六日	全上
佐々木 敏丸	全日	全上
山 上 逸	五月十二日	全上
千 葉 初藏	九月廿九日	死亡

九、第六回居留民會議員選舉ノ件

昭和九年十一月二十五日及二十六日の兩日に涉り、於公會堂民會議員一級（二十六日施行）及二級（二十五日施行）選舉を行ふ、選舉長、選舉立會人及當選者名左の如し

選舉長 上野 壽

一級選舉立會人 石川 通 野崎 誠 近
武内 進 三 潮田 重次郎
孫 寶 聚 方 若

二級選舉立會人 牧 尚一 山田 榮治
小谷 萬治郎 佐々木 長次郎

(38)

小林 陽之助	松本 京作
張 世 萬	孫 寶 聚
方 若	
民會議員當選者	
遠山 猛雄	橋本 磯太
原田 萬造	八木 忠良
清水 幸三郎	野崎 誠近
大内 專	金山 作次郎
田村 俊次	小林 成夫
森川 照太	松本 京作
小澤 昇	古田 治四郎
鹿田 多三郎	張 世 萬
佐々木 清一	龜澤 省 萬
鍛冶 靜一郎	清水 一太郎

十、民會議員選舉異議申立の件

同本 久雄
廣瀬 辰之助
牧 尚一
堀谷 信治
眞藤 葉生
(以上一級十五名)

上田 茂
三角 武雄
菊池 新一
木下 秀良
桑原 與惣八
(以上二級十五名)

(39)

本年十一月二十五、六兩日施行の民會議員選舉に關し坂田長平氏外四名及奥田長人氏は當民團行政委員會長上野壽を被申立人として選舉無効の申立をなしたり總領事は赤山今朝治氏外四名を審査委員に指名し審査せしめたる處同委員會は審査の結果十二月二十八日二級選舉無効の決定をなしたるより當行政委員會は之を妥當ならずと認め同三十日該決定に對する不服申立書を總領事宛提出したり

十一、居留民團法施行規則改正の件

昨年十二月上海居留民團より外務省に對し民團長制設置を主とせる民團法施行規則改正案の提出あり之につき本年七月外務省より當地總領事を通知當民團行政委員會の意見照會ありたるを以て行政委員會は内容の廣汎にして且重要性あるに鑑み八月十一日民會議員協議會を開き其の研究方法を諮りたる結果議員中

田村、吉田、足立、鍛冶、山内、金山、森川、木下、橋本、松本、上野、牧、岡本、志村、山田、植前、堀谷、龜澤、眞藤、大内

の二十名を審査委員として之に研究審査を委ねることとなりたり

該審査委員會は四回に涉り開會審査の結果成案を得更に八月二十三日民會議員協議會に之を報告し翌二十四日總領事館に對し右意見を提出したり

次て外務省より當件につき佐藤事務官の來津ありたるを以て同月二十九日前記審査委員と會同意見の交換をなしたり

(40)

十一月八日外務省より改正案の内示あり之につきて見るに改正要點は

(一)民會議員定數の改正並に人口の解釋中外國人の分は「課金負担者に制限」せること

(二)選舉權を有せざる者中に「民團公課滞納一年以上に及ぶ者」を加へたること

(三)被選舉權を有せざる者中に「小學校教職員」とありしを「在外指定學校教職員」とせること

(四)行政委員會を參事會と改稱せしこと

(五)民會議員選舉に於て同点者の順位を定むる方法中「年長者順」を加へたること

(六)民團に對し請負をなす者又は同法人役員は民會議員たるを得ざらしめしこと

(七)民會議員辭任せる場合領事之を公告すること・せること

(八)民會議員の欠員は四分の一以上に及びたるとき若くは領事必要と認めたる時補欠選舉をすべきこと・せること

(九)民會議決事項中に青年訓練所の件を加へたること

(一〇)豫備行政委員會制廢止

(一一)參事會員數を七人以下とせること

(一二)參事會員重任の項を省き並に辭任の場合其の辭任者氏名は公告さるべきことを加へたること

(一三)參事會員の補欠方法は

1. 領事不認可の場合には次点者繰上

2. 其他の場合にして領事必要と認めし場合は補欠選舉とせること

- (一四) 參事會員の一時補欠は次点者の繰上によりしこと
- (一五) 參事會開會に要する會員數中に議長又は代理者を特に加へたること並に「議決をなすこととを得ず」とありしを「會議を開くを得ず」と改めしこと
- (一六) 參事會は議長(會長)之を招集すべきものと明示せること(現行にては執務章程にあり)
- (一七) 參事會の傍聴を禁止せること
- (一八) 參事會の監督官廳に對する意見提出の權利及諮問に對する答申の義務を加へたること
- (一九) 參事會に書記を置きしこと
- (二〇) 吏員の懲戒に關する項を加へたること
- (二一) 居留民團長、助役及有給會計主任制を設くることとせること
- (二二) 理事代行者を參事會員と制限せず單に臨時代理者とせること
- (二三) 課金與議申立期間の起算日は「納入の告知を受けた日」とありしを「決定の告知を受けた日」に改め並に之に對する再決定の期間を定めたること
- (二四) 課金減免に使用料其他を加へ且つ超會計年度分の項を省きしこと
- (二五) 借入金は居留民會の議決を経ずとも參事會が領事の認可を経て行ひ得ることとせること
- (二六) 認下ありし予算は其謄本を會計主任に交付すること並に會計主任は參事會の命令あるも非合法の支出は爲し得ざることとせること

(二七) 課金浦脱者につき罰金制を設けたること
等なりしが之につき再度

- (一) 參事會なる名稱を廢し行政委員會とされたこと
 - (二) 豫備行政委員は現行通り二名存置されたこと
 - (三) 外國人選舉權の件
- の趣旨に於て當局に對し意見を具陳せり十二月十一日官報を以て右改正省令(前記内示案通り)公布ありたり

十二、居留民團法施行細則改正ノ件

イ、行政委員及豫備行政委員定數改正

館令第二號

大正拾四年館令第一號居留民團法施行細則中左ノ通り改ム

昭和九年十月十一日

在 天津

總領事代理 田中 莊太郎

第一條中「六十人」トアルヲ「三十人」ニ改ム第十四條中行政委員ノ定數ハ「十人」トアルヲ「七人」ニ豫備行政委員「五人」トアルヲ「二人」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

ロ、居留民團法施行規則改正ニ伴フ改正

館令第四號

居留民團法施行細則中左ノ通り改ム

昭和九年十二月二十四日

在 天津

總領事 川 越 茂

- 一、第一章第五條第六條第七條及第十三條中「行政委員會長」トアルヲ「參事會會長」ニ「行政委員會」トアルヲ「參事會」ニ「行政委員」トアルヲ「參事會員」ニ改ム
- 二、第十二條ヲ左ノ通り改ム
- 「居留民會議員ノ補關選舉ハ前任者ノ選出セラレタル等級ニ付之ヲ行フヘシ」
- 一、第二章ヲ左ノ通り改ム

第二章 參事會

- 第十四條 參事會員ノ定數ハ七人トス
- 第十五條 參事會ノ選舉ヲ終リタルトキハ居留民會議長ヨリ選舉ノ結果ヲ領事ニ報告シ認可申請ノ手續ヲナスヘシ
- 參事會員選舉ノ結果帝國臣民ニ非サル當選者過半數ニ達スルトキハ其ノ得票數最少キ者ヨリ順次之ヲ繰下ケ帝國臣民タル次点者ヲ繰上ケ過半數ニ及ヒテ止ムヘシ

第十六條 參事會會長副會長及其ノ代理者並ニ名譽職會計主任及其ノ代理者ノ選舉ニ關シテハ居留民會議長ノ選舉ニ關スル規定ヲ準用ス

參事會會長確定シタルトキハ其ノ氏名ヲ報告スヘシ

名譽職會計主任及其ノ代理者ノ選任ニ付テハ領事ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條 參事會員ハ後任ノ參事會員確定シタルトキヲ以テ離任ス

但シ參事會會長及名譽職會計主任ハ後任者確定シタルトキハ速ニ事務引繼ヲ爲スヘシ

第十八條 居留民團法施行規則第四十九條第一項及第三項ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ次回ノ居留民會ニ之ヲ報告スヘシ

一、第三章第二十三條及第二十四條中「行政委員會」トアルヲ「參事會」ニ改ム

一、第二十三條及第二十五條ニ「會計主任」トアルヲ「名譽職會計主任」ニ改ム

附 則

本令ハ昭和十年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

十三、領事裁判上訴地移管に關する請願の件

現在領事裁判上訴地は長崎となり居るも、全地、天津間は其距離遠隔にして手續經費其他に付不便甚しく、由て之が上訴管轄を關東廳法院に移管方、民間、商工會議所、辯護士團の連名を以て左の如く各關係方面へ請願せり

支那ニ於ケル帝國領事裁判ノ管轄ハ刑事ニ於テハ短期一年以下ノ懲罰及民事ニ於テハ區裁判所地

(45)

方裁判所ノ權限ニ屬スル事件ニシテ以上ノ裁判ニ對スル上訴ハ總テ長崎裁判所ノ管轄タリシ處其後滿洲ニ於ケルモノハ關東廳法院、南支那(福建、廣東、廣西、雲南)ニ於ケルモノハ台灣總督府法院、間島ニ於ケルモノハ朝鮮總督府法院ノ何レモ管轄トナリタリ然ルニ獨リ北支那ニ於ケル北京、青島、濟南、芝罘ニ至リテハ依然トシテ長崎裁判所ノ管轄タリ今試ミニ前記ノ地方ト長崎並ニ旅順トノ行程ヲ見ルニ

天津長崎間 六日
芝罘 同日
青島長崎間 三日
濟南 同日

ニシテ長崎ヲ以テ旅順ニ比スレハ時間ニ於テ多大ノ相違アリ殊ニ天津ノ如キニ至リテハ正ニ三倍ノ時間ヲ要ス若シ夫レ上記ノ地方ニ在リテ人訊問ノ如キニ至リテハ殆ト不可能ナルヲ以テ何レモ領事館ニ訊問囑託ヲナスヲ例トセリ且ツ上告ニ至リテハ大審院所在地タル東京トノ交涉ナルヲ以テ更ニ幾數十日ノ時間ヲ要シ爲メニ多額ノ經費ヲ要スルト從テ事件ノ遲延トハ官民ノ最モ苦痛トスル所ナリ故ニ勢ヒ訴訟當事者ニ於テ上訴權ノ放棄ヲ爲スノ傾向ヲ見ルハ洵ニ遺憾ノ事柄ニ屬ス故ニ上訴管轄ヲ關東廳法院ニ移ストキハ以上ノ困難ハ一切解消シ官民共ニ至大ノ便益ヲ増進ス如クナラス前記ノ地方就中天津ニ在リテハ大連ト産業上ノ交涉連續シテ絶エサルノミナラス近年益々頻繁トナルノ事情アリ旁々此際右移管ノ件達成スル様御設置相成度此段連署ヲ以テ奉懇願候
昭和九年十二月廿七日

(46)

天津居留民團
行政委員長 森川 照太
天津日本商工會議所
會 頭 松尾 豐實
天津 在住
辯護士團代表 石川 通

外務大臣 廣田弘毅殿
(當地總領事館ヲ通シ傳達)
司法大臣 小原 直殿
滿洲國駐劄 南 次郎殿
特命全權大使 杉浦 忠雄殿
關東廳高等法院長 關東廳高等法院
檢察官長 下田勝久殿

十四、第七團債償還延滞事情具陳の件

昭和九年六月二十日當地總領事より埠頭築造資金貸付金償還延滞の理由其他に付外務省より調査方申越ありたる旨通知に接し當民團は六月二十八日左の通り回答せむ

(47)

昭和九年六月二十八日
天津居留民團
行政委員長 上野 壽
在 天津
總領事 栗原 正殿
埠頭築造資金貸付ニ關スル件
本件ニ關シ民團往第二六號ヲ以テ本貸下金償還延滞理由償還方法等ニツキ御來示ノ趣敬承左記ノ通り御回答更ニ個願仕候
記

一、目下延滞シ居ル元金及利子ノ額ハ
元金貳拾萬圓也 (自昭和五年年度 四ケ年分毎年金五萬圓)
至全 八年度
利子金四萬五千圓也 (自昭和五年年度 三ケ年分毎年金壹萬五千圓)
至全 七年度
元利合計金貳拾四萬五千圓也ニ有之候
一、御貸下金延滞ノ事由ハ本年四月十日付天民甲第六九號請願ノ通り昭和五年以來世界の不況ニ加フルニ同六、七、八年ノ天津、上海、滿洲事變ノ爲メ市況ハ深刻ナル影響ヲ受ケ延滞弊民團財政ニモ亦補然打擊ヲ受クルニ至リタリ即チ弊民團ニ於ケル課金其他一般ノ收入ニ著シキ

(48)

減少ヲ來シタルヲ以テ比年歳出ニ於テハ極度ニ節約シ就中新規事業ハ緊急不得已モノノ外ハ一切差控エ面カモ此間別表記載ノ如ク橫濱正金銀行借入金償却ニ務メ漸ク昭和十年度ニ於テ元金ノ支拂ヲ了シ悉皆決済スヘキ豫定ノ狀況ニ有之候故ニ昭和十一年度以降ニ於テハ逼迫セラル財政モ相當緩和スル見込ナルヲ以テ從テ御貸下金ノ償却モ亦其以降ニ實行スルコトセハ確實償却ノ目的ヲ達成シ得ルモノト被存候就テハ右事情御覽察ノ上左記事項特別ノ御諮議ヲ以テ御承認相成候様關係當局ニ御進達相成度奉個願候
一、御貸下金ハ昭和十一年以降十ケ年間元利共(延滞元利金ヲ含ム)均等年賦償還ノコト
一、昭和九、十年度ハ利子ノミ支拂ノコト
一、昭和九年度以降貸下金利子三分二二分ニ減額ノコト
以上

埠頭築造ノタメ橫濱正金銀行借入金

年 度	借 入 額	償 還 額	備 考
昭和五年六月	六七〇、〇〇〇	二二〇、〇〇〇	(年利六分五厘)
六 年		二二〇、〇〇〇	六年六月廿日支拂済